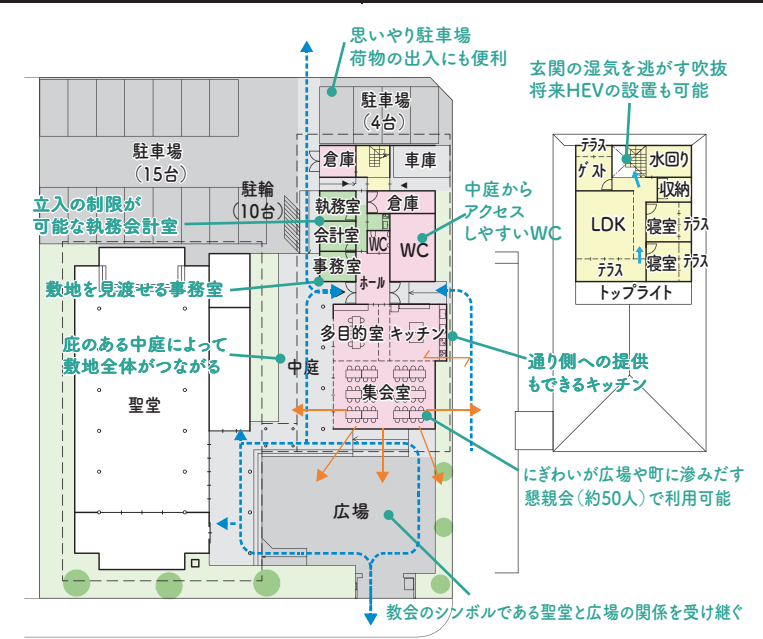


設計方針

- 1. 紡がれてきた営みに合った居場所**
教会との対話、今ある空間の使われ方の観察により、長い歴史の営みを引き継ぎ居場所を作ります。
- 2. これからの活動を支える新しい空間**
機能性や、新しい活動の可能性を議論し、将来にわたって使い続けられる空間を実現します。
- 3. みんなでつくる教会**
計画段階から多くの人々が興味をもち、自分の居場所だと感じられるよう、協働の機会を大切にします。



1階平面イメージ **2階平面イメージ**

諸元表

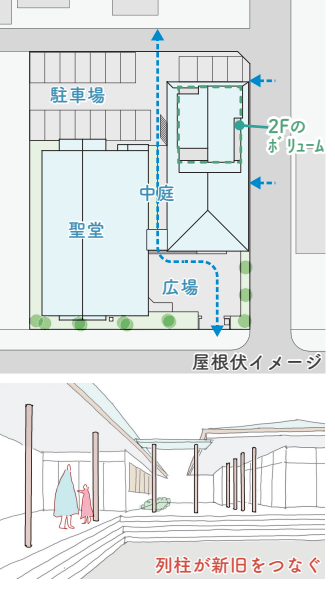
床面積		概算予算	
1階	: 211㎡		
2階	: 118㎡		
外部	: 31㎡		
(外廊下、車庫等)			
TOTAL	: 360㎡ (109坪)		

※コスト管理計画については様式3-1を参照

基本方針をふまえた提案

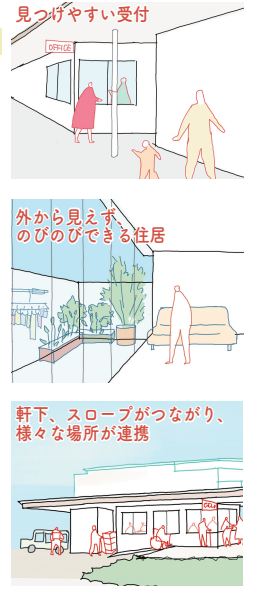
1- 歴史を尊重した教会建築の提案
聖堂や広場で紡がれた営みを受け継ぎ、補強する

- 聖堂にひれ伏す緩やかな屋根
聖堂の大屋根は郡山教会のシンボルです。この景観を損なわないよう、新しい建物は緩やかな勾配で高さを抑えます。2階ボリュームは聖堂と隣接しないよう配置します。
- 広場と聖堂との関係を受けつぐ
広場に向けた聖堂の軒下は、信徒の憩いの場所で、地域においても大通りから良く見える印象的な場所です。これを残し、憩いや交流の場として補強します。
- 軒下の列柱が連なる新旧の建物
聖堂の内外に連なる丸柱は教会内に優しく力強い雰囲気をつくっています。新しい建物はこれに呼応し、軒下の柱の連なりで新旧の建物をつなぎます。



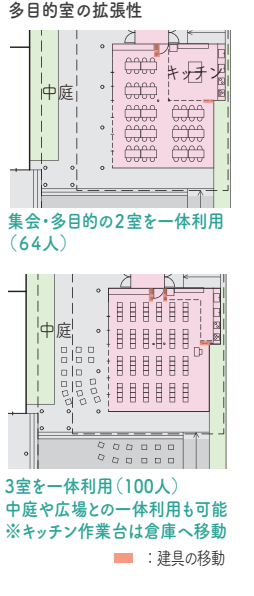
2- 機能性の高い教会建築の提案
新しい建物・外構計画で多様な活動を支える

- 事務/集会/居住の各機能の確保
集会機能は広場・聖堂と連携し地域に賑わいがにじみ出る南側に、事務機能は教会を見渡せ、事務諸室への入室を制限できる中央に、居住機能はプライバシーと採光などの環境を満たす2階に配置します。
- 敷地内をつなぐ軒下とパーゴラ
新しい建物の中庭・広場側に軒下空間を設け、聖堂とつなげます。移動に障害がなく、敷地全体の有効活用を計ります。
- 車/徒歩の動線を分ける
徒歩は南東交差点側、車は敷地北側に入口を分け、安全性と環境性を確保します。
- ユニバーサルデザイン
敷地内や1階はスロープでつながっています。思いやり駐車場・誰でもトイレがあり誰もが使いやすい建物です。多言語表示やピクトグラムによるサインをデザインします。



3- 多様性を受け入れ、交流を考慮した教会建築の提案
交流を育む集会エリアと中庭・広場

- 多様な交流を育む集会室
集会室はみんなの家におけるロビーのような空間で、交流の雰囲気が広場や中庭を介して広がります。隣接する場所に拡張した利用も可能です。
- みんなの居間のような多目的室
ホールから直接入室できる多目的室は、集会室のイベント時も利用でき、ゆっくりできる落ち着いた雰囲気を提案します。
- 交流を育むキッチン
飲食のある交流は親密で温かい雰囲気を作り出します。交流の要として様々な場所と連携ができるよう計画します。
- 中庭の整備
既存広場と駐車場広場、また聖堂と司祭信徒館をつなぐ中庭を提案します。地域に開かれた広場に対し、プライベートな雰囲気のある居場所です。



4- パンプデザインを考慮した教会建築

- 1階ホール上のトップライト
1階ホール上部の天窗は、南北に延びる建物の中央付近での効果的な採光・通風を可能にします。
- 中廊下への対策
執務・会計室横の廊下は、セキュリティラインの設定により、室内間仕切りを通风・採光可能なものにします。2階住居の中廊下は、端部をガラスにする等の工夫をします。
- 底による日射制御
夏季の日差しを遮ります。

5- (その他)構造計画

- 平やかな構成でコストメリットのある住宅用流通材のみによる在来軸組工法です。近隣県の一般的なスギ材を想定、断面は殆どが105x240以下で、大梁でも105x300程度、長さも6m以下としています。合理的で無理のない構造計画です。

